

科目コード	S23104	科目名	言語発達障害演習				
履修区分	必修	開講期	1年後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	河村 千夏						
授業の概要	小児のコミュニケーション障害に関する検査 [特に知能検査系・認知検査系] の 概要把握、 実施方法、 評価方法の理解を目指します。						
DPとの関連	人間を広い領域から捉え、人を愛する心と専門技術を統合できる能力を身につける						
	言語聴覚障害学について深い専門的知識を修得し、それを臨床において適切に応用することができる能力を身につける						
	職務遂行に必要な社会性、倫理観、専門職業人としての自覚を身に付け、多様な患者、家族、医療・福祉関係者等と円滑なコミュニケーションを取ることができる能力を身につける						
	複雑で多様な障害について常に科学的に探究する姿勢をもち、積極的に自己研鑽し続ける能力を身につける						
到達目標	DP：ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）= 修了までに身に付けるべき資質・能力 小児のコミュニケーション障害に関する検査 [特に知能検査、認知検査系] の 概要把握、 実施方法、 評価方法を理解すること。						
履修上の注意事項	遅刻は2回で欠席1回扱い、開始後20分以降は欠席扱いですが、やむを得ず遅れた場合も参加してください。提出物は期限、課題量の指定を守りましょう。提出が遅延する場合には事前に連絡を頂いていただければ幸いです。						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	STRAW(小学生の読み書きスクリーニング検査)				マニュアルを読む(60分)	
	2	SCTAW(標準抽象語理解検査)				マニュアルを読む(60分)	
	3	KABC-II(心理・教育アセスメントバッテリー 第2版)				マニュアルを読む(60分)	
	4	KABC-II(心理・教育アセスメントバッテリー 第2版)				検査道具と検査項目を対応させておく(60分)	
	5	KABC-II(心理・教育アセスメントバッテリー 第2版)				検査用紙の使用方法をマニュアルで確認しておく(60分)	
	6	読書力診断検査				マニュアルを読む(60分)	
	7	D T V P (フロスティッグ視覚発達検査)				マニュアルを読む(60分)	
	8	DAM(クットイナフ人物画知能検査)/LDI-R(LD判断のための調査票)				マニュアルを読む(60分)	
	9	田中ビネー知能検査				マニュアルを読む(60分)	
	10	田中ビネー知能検査				実施・採点法の練習(60分)	
	11	田中ビネー知能検査				結果の理解・解釈の復習(60分)	
	12	DN-CAS(認知評価システム)				マニュアルを読む(60分)	
	13	DN-CAS(認知評価システム)				実施・採点法の練習(60分)	
	14	DN-CAS(認知評価システム)				結果の理解・解釈の復習(60分)	
15	DN-CAS(認知評価システム)				結果の理解・解釈の復習(60分)		
成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード	
	言語発達障害学 第3版(標準言語聴覚障害学)【深浦順一編集】(医学書院)					978-4260043427	
	言語聴覚士テキスト第3版【大森孝一ほか(編)】(医歯薬出版)					978-4263265604	
参考書	各検査のマニュアル、解説ビデオ等						
	C-learningにて都度紹介していきます。						
教員からのメッセージ	・事前に検査道具に触れたり、マニュアルを読んだりしておく、疑問点を持って講義に臨め、理解が深まります。 ・各検査の適用年齢はおさえておきましょう。 ・演習時には対象となる子どもの発達を想定しながらの実施ができるよう、定型発達の復習をしておいてください。						
教員との連絡方法	講義・演習中に適宜質問ください。C-learningでの連絡・質問も承ります。						
実務経験のある教員	言語聴覚士として小児療育センター及び特別支援学校にて言語発達障害児の臨床経験のあり、現在言語聴覚研究所付属相談室にて小児の言語相談・指導に携わる教員が担当する。						